2026_0217「桃色の北極圏」日々の理科 4209 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

極夜が終わり、北極圏にゆっくりと太陽が戻ってきます。長い闇の季節を越え、春分を過ぎると、昼の時間は少しずつ確実に伸びていきます。しかしこの時期の太陽はまだ地平線のすぐ近くを低く移動するだけで、空は完全な昼にはならず、夜明けと夕暮れが長く溶け合うような不思議な光に包まれます。

写真の空に広がる淡い紫色の帯は「地球影」です。地平線付近に横たわるこの影は、太陽がまだ地平線下にあることを静かに示しています。その上には、桃色の柔らかな光の層、「ヴィーナス・バンド」が重なっています。地球影とヴィーナス・バンドが同時に現れるとき、北極圏の雪原はまるで薄紅色のヴェールをまとったように染まることがあります。

雪と空が一体となり、世界全体が淡い桃色に沈むこの瞬間は、厳冬の終わりを告げる優しい合図です。一晩中オーロラを待ち続けた観測者にとっても、この静かな色彩は心をほっと緩める風景でしょう。北極圏の春は、こうして光の色から始まります。

（2026 年 2 月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測）